

# ネオニコチノイド系農薬と生物多様性

## ～何がどこまで分かっているか？ 今後の課題は何か？～

現在、ネオニコチノイド系農薬が生物多様性に与える影響が世界的に懸念されています。ネオニコチノイド系農薬とは、有機リン系農薬に代わり90年代から主力農薬として普及してきたクロロニコチル系殺虫剤の総称であり、国内外で広く普及しています。ネオニコチノイド系農薬は、農業生産に大きく貢献する一方で、発売後間もなくして、欧米を中心にミツバチ類など野生生物への影響が問題視されました。日本においても生態学者はもちろんのこと、一般市民の間でもネオニコチノイド系農薬のリスクを懸念するとともに、その使用規制についての議論が急速に高まっています。この度、国立環境研究所では、生態系や生物多様性への影響が世界的に懸念されているネオニコチノイド系農薬について、最新の科学的知見や社会的背景に基づいて情報を整理し、我が国の生物多様性の保全と農業の発展の両立のために今後取り組むべき課題を議論するためのシンポジウムを開催いたします。参加料は無料です。皆様のご参加をお待ちしております。

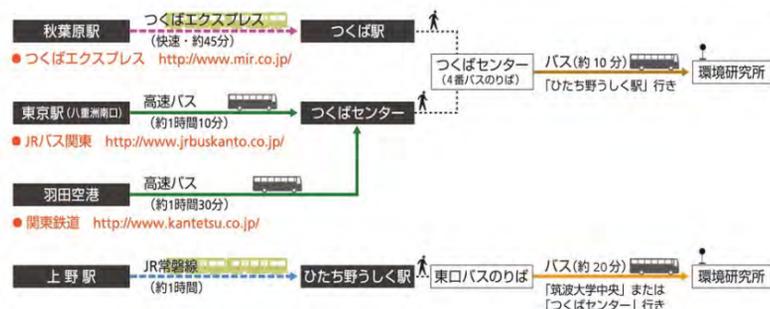
日時

2015年7月15日(水)  
13:30～17:30 (12:30開場)

場所

国立環境研究所 大山記念ホール  
〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2  
TEL: 029-850-2453 ホームページ: <https://www.nies.go.jp/index.html>

交通機関ご案内 <http://www.nies.go.jp/gaiyo/kotu/index.html>



- 13:30 開会の挨拶 住 明正 (国立環境研究所理事長)
- 13:40 「ネオニコチノイド系農薬の基礎知識」 永井孝志 (農業環境技術研究所)
- 14:20 「ネオニコチノイド系農薬等のハナバチ類への影響」 中村 純 (玉川大学)  
(休憩)
- 15:10 「ネオニコチノイド系農薬の生態リスク評価」 五箇公一 (国立環境研究所)
- 15:50 「水田におけるネオニコチノイド系農薬影響実態」 日鷹一雅 (愛媛大学)
- 16:40 パネルディスカッション
- 17:20 環境省コメント (環境省 水・大気環境局)
- 17:30 閉会

お問合せ先

国立環境研究所  
生物・生態系環境研究センター  
〒305-8506 茨城県つくば市小野川16-2  
TEL: 029-850-2894  
e-mail: [cebes.web@nies.go.jp](mailto:cebes.web@nies.go.jp)  
ホームページ: <http://www.nies.go.jp/biology/>

後援

環境省  
日本生態学会 (予定)



K.GOKA